

事例 22 兵庫県加西市

人 口	51,975 人
高齢者数	10,611 人
高齢化率	20.42%
担当部署	市民福祉部保険課、健康長寿課

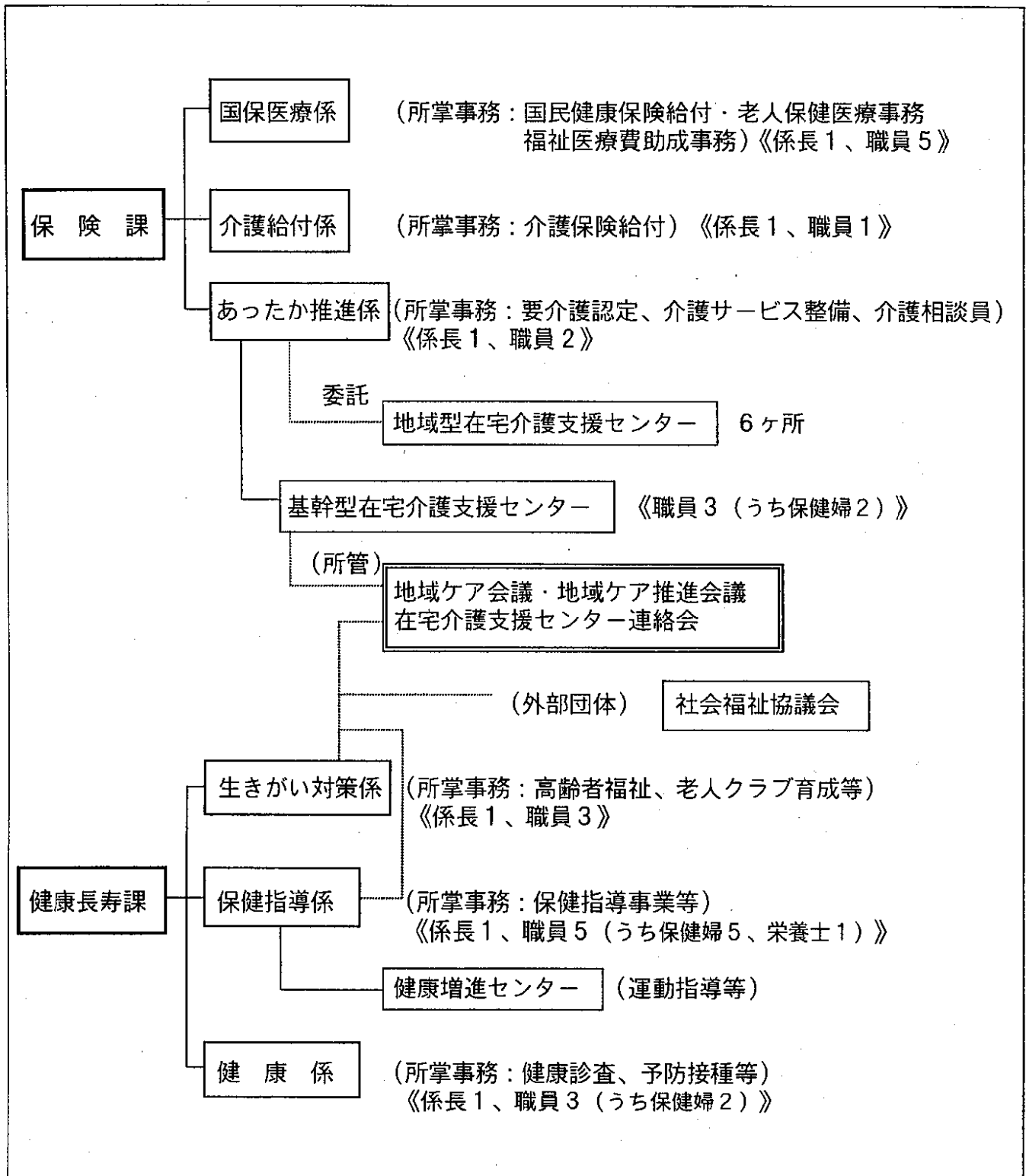
1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	<p>加西市は兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置し、東西12.4km、南北19.8km、面積約150.44km²の市域を有する人口約53,000人の都市で、国土幹線道路である中国自動車道路及び山陽自動車道等により大阪圏との広域交通の利便性に恵まれている。</p> <p>産業面では、家電製品製造業、金属製品製造業等の第二次産業及び大規模小売店を中心とした商業活動も盛んで、現在北条駅周辺で市街地再開発事業を進めている。農業は、米、大根、馬鈴薯、ぶどう等が中心であるが、農家のうち95%以上が兼業農家である。</p> <p>一方、市内の公共交通機関は北条鉄道とコミュニティバスがあるものの非常に地域が広いため十分ではなく、自家用自動車が必要な交通手段となっているため、自動車の1世帯あたりの保有台数は2.6台と高く、高齢者の約4割以上が免許を保有している。また、高齢者のいる世帯の持家比率は96.1%と非常に高く、住宅の延べ面積も全国17位と広い。医療機関数は、病院2、診療所24、歯科診療所24、施術所14ヶ所。</p> <p>全国に先駆けて昭和48年度に健康増進センターを設置し、昭和63年度から国保ヘルスパイオニアタウン事業の指定を受けて「ねたきり0の町づくり」を健康施策のスローガンとして、健診受診率のアップ、健康体操の普及推進、地域ケアシステムの確立等に努めてきた。</p>									
	人口	51,975 人			高齢者数 (高齢化率)			10,611 人 (20.42%)		
	世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯					
		11,771			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他	
要介護認定 (申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
	19	4	90	320	214	189	195	154	1162	
社会源状況	指定居宅サービス事業所 (か所数)	訪問看護 (2) 訪問介護 (4) 通所介護 (5) 通所リハ (0) 短期入所系 (4) その他 (7)								
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)	10ヶ所								
	保健センター 在宅介護支援センター (か所数)	在宅介護支援センター7ヶ所 (基幹型1、地域型6) 健康増進センター ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。								
	介護予防事業の拠点となりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)	健康福祉会館 1 健康増進センター 1 地域交流スペース 3 公会堂 (各町:130) 公民館 4								
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)	いきいき委員会 (67町)・はつらつ委員会 (4地区) いずみ会 (160人) ・運動普及員 (50人) 民生委員児童委員 (福祉委員) (110人) 民生協力委員 (220人)									

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。(平成13年12月末現在)

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図

平成14年1月1日現在



3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。→問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>〔 記入項目例：①事業実施の根拠(国庫補助事業、県単独助成事業)、 ②所管部局、 ③事業内容(事業名、事業目的、対象者、実施回数、スタッフ等) 〕</p> <p>・食生活改善推進員組織活動</p> <p>① 国庫補助事業 ② 保健部門担当 ③ 事業名：食生活改善推進員組織活動事業 目的：食生活改善グループ相互の連絡を密にし、地域における食生活改善等の実践活動を組織的に推進し、地域住民の健康増進に寄与する。</p> <p>(事業内容)</p> <p>・兵庫県、保健所への協力事業・会員研修 15回 ・市民を対象に高齢者及び親子への食生活改善事業 136回 延5,348人 ・広報活動 12回 ・毎月の例会・研修会 12回</p> <p>・健康増進センターでの運動指導事業</p> <p>① 国庫補助事業 ② 保健部門担当 ③ 事業名：運動指導事業 目的：医学的検査、体力テスト、栄養診断等による健康度を測定し、地域住民の体力づくりや健康増進に寄与する。 スタッフ：医師、保健婦、栄養士、看護婦、運動指導員、事務</p> <p>(事業内容)</p> <p>・健康度の測定 ・食生活、運動等の生活処方及び実地指導 ・健康教育 ・健康相談</p>

・小地域福祉活動助成

① 市単独事業（社会福祉協議会へ助成）

② 福祉部門担当

③ 事業名：小地域福祉活動助成

目的：住民相互による世代間ふれあい、見守り、助け合い活動により、ひとり暮らし又は虚弱で昼間独居の高齢者等のとじこもりの予防等と生きがいもてる地域づくりを推進する。

対象者：地域全住民

実施回数：各地区、各町の実情により異なる（年間を通して地域に即した事業を住民主体で実施）

スタッフ：健康長寿課担当者、地区担当保健婦、社会福祉協議会職員との連携により必要な事業、会議に出席、アドバイス

（事業内容）

当市は、子供との同居世帯が多いが、兼業農家で広い宅地に虚弱で昼間独居の高齢者が多く、また、交通機関もなく昼間外へ出ても人気のない地域が非常に多い。

そこで、平成5年度より、閉じこもりがちな高齢者をはじめとして誰もが介護が必要となることを予防し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる ふれあい、助け合いの町づくりを市全地域へ推進していった。

平成12年3月現在未で、地区単位の「はつらつ委員会」が市内9地区中4地区、町単位の「いきいき委員会」が市内142町中67町で組織を設立し、隣保単位の「あったか班」があり連携のとれた組織づくりが市内半分で実施され、各町、各地区住民主体で、地域にあったふれあい事業や声かけが展開されている。

その中で代表的な活動として“いきいきデイケア”がある。町住民の企画立案により年5～6回実施されている。あったか班が案内のチラシを持って高齢者宅を訪問し、出欠の確認と食事代100円の徴収を兼ねて見守りができ、介護予防施策につなげる必要のある高齢者がいれば、早期発見、早期対応ができるシステムをとり民生委員が中間役割をはたす。デイケアは毎回、体重測定、血圧測定、食事会、体操を取り入れて、閉じこもり、痴呆予防となっている。

参加している高齢者は、デイケアの開催が待ち遠しく、日々の暮らしにも気軽に外出でき、抵抗感が無い。世話する人される人は世代送りだという認識が確立されている。

* 添付資料① ・各地区“はつらつだより”の一部

・高齢者あったかシステム（小地域ネットワークシステム）

・敬老月間ふるさと福祉事業

① 市単独事業

② 福祉部門担当

③ 事業名：敬老月間ふるさと福祉事業

目的：高齢者の介護予防と、健康で生きがいのある生活を目指して「いこいの場」「ふれあいの場」を提供する。

対象者：市内居住の高齢者

実施回数：9月1日～9月30日 24日間

スタッフ：市健康長寿課、社会福祉協議会

(事業内容)

当市は、平成10年度より市内の高齢者を対象に健康福祉会館において芝居の無料公演と風呂の無料開放を実施している。2年目を迎えた平成11年度は、1日の利用者数286人、1ヶ月を通して延6,871人、利用団体数93団体が利用した。市内老人クラブ等10名以上の団体については、マイバスによる送迎付きなので、身体的な理由で、日頃老人クラブ活動ができず、また出て行く機会も場所もなく、閉じこもりがちな人も、町の老人クラブ会員相互の交流が図られ、仲間として再認識される。それをきっかけとして、老人クラブ活動友愛訪問へと発展していくことにもなった。

・高齢者あったか推進のつどい

① 国庫補助事業

② 福祉部門担当

③ 事業名：高齢者あったか推進のつどい事業

目的：住民相互の呼びかけ、ふれあいにより高齢者の閉じこもりを防止し、地域における住民の役割を明確にする（認識する）

対象者：地域住民

実施回数：140回（各町1回）

スタッフ：地域住民

(事業内容)

平成11年度末において、市内2地区32町で、地元に住む高齢者を自分達の手で敬老を祝う「高齢者あったか推進のつどい」を実施した。当事業は、敬老を祝うふれあい事業を公会堂を拠点として実施することにより、平素は閉じこもりがちな虚弱高齢者の重い腰を立ち上げるきっかけとなり、久しぶりに高齢者相互の語り合いや世話人である町役員、子供達とのふれあいができ、予想以上の喜びとなった。また、世話人側は地元の高齢者にどんな人がいて、今現在どのような生活をされているのか認識することになり、二重のメリットとなった。

また、年間を通して公会堂等で行われる上記以外のいきいき委員会事業（町事業）に、高齢者が参加しやすくなり、世話役員も高齢者に声をかけやすくなった。

なお、当事業は平成13年度で、市内142町中140町が町単位で実施するという広がりを見せ、地域における介護予防が図れる体制基盤が整いつつあることを示した。今後も、市民へのPRを推進していくものである。

*平成13年度 出席率は約50%（敬老対象者（75歳以上）4,538人）

(問3)

上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?

() 行った () 行っていない

(具体的方法)

・食生活実態調査結果(食生活改善推進員組織活動)

上記事業を行い、あわせて実態調査を行った。

- ① 塩分摂取量は、12才～74才までは目標量の10gを上まわっており、1才～11才、75才～80才以上の者が10gを下まわっている。
- ② 穀類、乳類、緑黄色野菜、その他の野菜、豆類が男女ともすべての年代において目標量を下まわっている。
- ③ 菓子類、油脂類で、60才～80才以外の年代において、目標量を上まわっている。魚介類は男女とも、肉類は男性に、卵は女性に目標量を上まわっているものが多い。

・運動指導事業

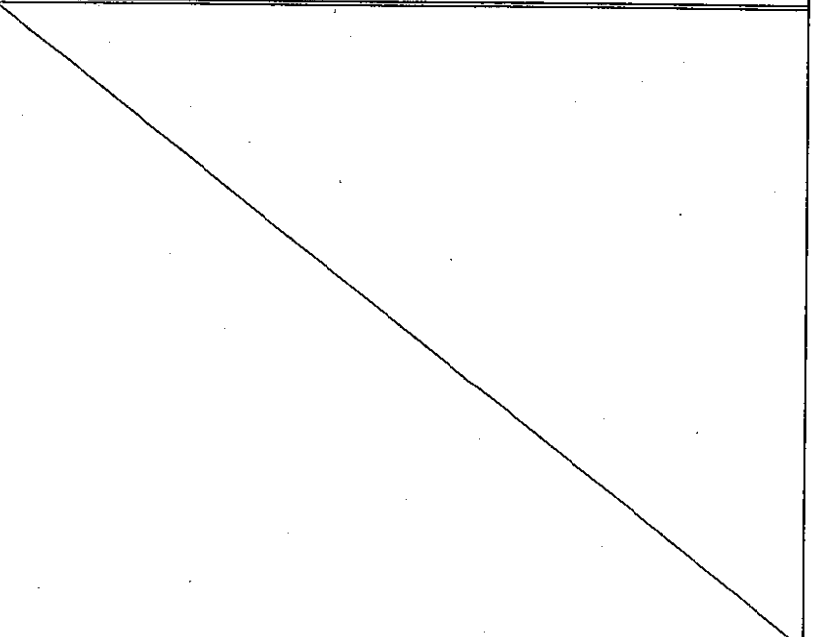
対象者の聞き取り調査

- ① 加入理由 ② 加入して4ヵ月後の加入前後の変化
ア. 不定愁訴の変化 イ. 健診結果の変化
ウ. 医療の変化 エ. 生活習慣の変化
オ. 体力テストの変化
- ③ 継続できた理由

・いきいきデイケア

MMSテストを実施。痴呆鑑別診断勸奨、痴呆予防相談を実施し、必要な人には受診勸奨を行った。受診の結果、生活習慣病が発見された。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となった部局はどこか？ ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	<p>・ 生きがい対応型デイサービス事業</p> <p>①中心となった部局 介護保険担当</p> <p>②きっかけ</p> <p>平成11年度末、デイサービス利用者の介護度を推測すると、58% (230人) が介護保険対象外になることが分かった。これらの人の心身状況を調査したところ、身体は自立であっても、57%が週2～3回以下の外出頻度、59%の人は唯一デイサービスが人との交流の機会で、楽しみにしていることが分かった。そこで、閉じこもりを予防する意味から平成12年4月1日から生きがい対応型デイサービスを開始できるよう企画した。</p> <p>高齢者は馴染みを大切にしているので、従来どおりの参加グループを主体にして対象者を増やし、場所は同じ福祉法人の施設で、又、交通機関が乏しい当市の土地柄を考慮して、送迎を必須条件として取り入れるように配慮した。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p>・生きがい対応型デイサービスの企画（介護保険担当）</p> <p>① 協議 平成11年度にデイサービスを委託していた福祉法人及び社会福祉協議会4カ所を巡回し、介護保険外の生きがい対応型デイサービスが受け入れられるかを検討依頼。 一方、介護保険、老人保健担当が協議し本サービスの中に転倒予防教室を取り入れ、委託するだけでなく市スタッフ（保健婦、看護婦、運動指導員）もかかわり、健康チェックと体操を取り入れる。体操は、オリジナルのてんとうむし（転倒無し）体操を考案することを共通認識した。 その後、打ち合わせ会開催 参加者 各福祉法人施設長、デイサービス指導員、介護保険担当、老人福祉、老人保健担当障害福祉担当 意見集約 ・ 目的は閉じこもり、転倒予防 ・ 介護保険対象者と一緒にしない、場所は法人施設の会議室等利用 ・ 昼食、送迎を付ける</p> <p>② 対象者の説明会 平成11年度にデイサービスを利用していた人が戸惑うことのないように各施設で説明。</p> <p>③ スタッフ研修と連絡会 各施設の介助員、生活指導員、地区担当保健婦、看護婦運動指導員</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記の様な検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうか？ ・事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・既存の設備の利用が可能か？ 	<p>・生きがい対応型デイサービス事業 (ニーズの把握方法) 4-(問1)に記載 (対象者の選定方法) 利用希望者には支援センター職員等がデイサービス利用調査表を記載し、利用申請書を提出後に利用決定 (人材の確保) 各施設で従来デイサービスを経験している介助員を選定してもらい、行政と協同で認識を高め介護予防の認識を高める。評価していくのも人材育成の一つ。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>〔記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数(週、月)、実施体制(スタッフ、研修)、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携(協力)体制 等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業名：高齢者食生活改善事業 目 的：高齢者(一人暮らし高齢者を含む)及び高齢者を抱える家族に、元気でいきいきと暮らしていくために、食生活改善(バランスのとれた食事・減塩・適塩)と望ましい食習慣が継続できるよう地域で支援できるような活動をめざす。 対象者：高齢者、高齢者を抱える家族 事業内容：小グループによる料理講習会、塩分測定 開始時期：平成12年4月1日 実施回数：講習会 月1回、訪問回数1回 実施体制：(スタッフ) 栄養士(職員、雇い上げ)、いずみ会員 *H11.12年度は会員へ介護予防事業の研修・講習会を行っているところであり、徐々に会員による地域での講習会が増えつつある。 事業予算(H12年度)：687,715円 補助金：高齢者食生活改善事業 事業所管課：保健部門担当 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業名：運動指導事業 目 的：生活習慣の改善で効果が明らかになる人を対象に生活の中に運動が取り入れられ、習慣化できるよう運動指導を効果的に推進する。 対象者：一般市民 事業内容：プログラム作成、運動指導、セルフチェック、健康・生活改善評価 開始時期：平成12年4月1日 実施回数：運動移動回数 88回、対象者数 1,320人 事業予算：1,481,513円 補助金：運動指導事業 事業所管課：保健部門担当 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業名：生きがい対応型デイサービス事業 目 的：虚弱高齢者に対し、閉じこもり防止及び心身状況の維持のため、介護予防を図る。 対象者：概ね65歳以上で家に閉じこもりがちな虚弱高齢者

事業内容：転倒予防教室、生活相談、生活指導、健康チェック、機能訓練、レクリエーション、給食、送迎
 開始時期：平成12年4月1日
 実施回数：閉じこもりがち自立高齢者 月2回
 虚弱高齢者 月4回
 実施体制：社会福祉法人デイサービス事業所5ヶ所に委託
 (スタッフ) 生きがい活動援助員、市保健婦、運動指導員
 看護婦
 事業予算 (H13年度)：
 ① 生きがい対応型デイサービス事業 12,176,000円
 ② 転倒予防教室 1,128,000円
 計 13,304,000円
 補助金：① 生きがい活動支援通所事業 ② 介護予防教室
 事業所管課：保健・福祉部門担当
 他課との連携(協力)体制：基幹型在宅介護支援センター
 地域型在宅介護支援センター
 生活指導員(各施設)

* 添付資料②
 加西市生きがい対応型デイサービス事業運営要綱

・事業名：介護予防と地域福祉活動事業
 目的：地域福祉活動を通して、「介護予防とは何か」を周知するとともに高齢者のニーズ把握と適切な介護予防事業を早期に対応できるシステムの確立と、介護予防委託事業内容の充実と質の向上
 対象者：全住民
 事業内容：(H13年度)
 ① 2001健康福祉まつり事業の実施
 「介護予防と地域福祉活動」をテーマに大阪府立大学教授による基調講演とパネルディスカッション
 ② 各地区ごとに「介護予防と地域福祉活動」をテーマに研修会の実施
 ③ 各介護予防・生活支援サービス委託事業書との連絡会の開催
 開始時期：平成12年4月1日
 実施回数：① かせい健康福祉まつり事業の実施(1回)
 ② 各地区ごとの研修会(各地区1回)
 ③ 介護予防委託事業所との連絡会(12回)
 実施体制：加西市はつらつ委員会代表及び地区はつらつ委員会に委託
 (スタッフ) ①② はつらつ委員会、いきいき委員会、市健康長寿課職員、社会福祉協議会、基幹型在宅介護支援センター、地域型在宅介護支援センター、民生委員児童委員、運動普及員、食生活改善普及員、兵庫県理学療法士会
 ③ 健康長寿課事業担当職員、保健婦、施設長、生活指導員、生きがい活動援助員
 事業予算 (H13年度)：
 ① かせい健康福祉まつり事業 1,300,000円
 ② 各地区ごとの研修会 700,000円
 計 2,000,000円

	<p>補助金：高齢者地域支援体制整備事業補助金 事業所管課：福祉部門担当 他課との連携（協力）体制：保険課他スタッフ</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活改善事業 食生活改善推進員の声かけによる講習会が広がっている。 ・ 介護予防と地域福祉活動事業 区長会、はつらつ委員会、いきいき委員会、民生児童委員会等の組織を通して呼びかける。 <p>※ 添付資料③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あなたの生活を支援します！！（介護保険以外のサービス） ○加西市・地区“あったか友愛推進大会”（パンフレット） ○2001かさい健康福祉まつり（パンフレット） ○新聞記事抜粋：生きがい対応型デイサービス H12.3.2、H12.4.12

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄																																																																														
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)</p> </div> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>・ 高齢者食生活改善事業 (事業費)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">12年度</th> <th style="text-align: center;">13年4月～12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">83,052</td><td style="text-align: right;">103,590</td></tr> <tr><td>手当</td><td style="text-align: right;">6,120</td><td style="text-align: right;">7,605</td></tr> <tr><td>共済費</td><td style="text-align: right;">15,480</td><td style="text-align: right;">19,620</td></tr> <tr><td>賃金</td><td style="text-align: right;">195,490</td><td style="text-align: right;">207,600</td></tr> <tr><td>謝礼</td><td style="text-align: right;">30,000</td><td style="text-align: right;">30,000</td></tr> <tr><td>需用費</td><td style="text-align: right;">323,073</td><td style="text-align: right;">171,690</td></tr> <tr><td>役務費</td><td style="text-align: right;">34,500</td><td style="text-align: right;">20,800</td></tr> <tr><td>計(円)</td><td style="text-align: right;">687,715</td><td style="text-align: right;">560,905</td></tr> </tbody> </table> <p>(実施回数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">12年度</th> <th style="text-align: center;">13年4月～12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>訪問回数</td><td style="text-align: center;">1回</td><td style="text-align: center;">2回</td></tr> <tr><td>講習会</td><td style="text-align: center;">12回</td><td style="text-align: center;">9回</td></tr> </tbody> </table> <p>・ 運動指導事業 (事業費)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">12年度</th> <th style="text-align: center;">13年4月～12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">276,528</td><td style="text-align: right;">163,152</td></tr> <tr><td>手当</td><td style="text-align: right;">12,768</td><td style="text-align: right;">7,920</td></tr> <tr><td>賃金</td><td style="text-align: right;">809,760</td><td style="text-align: right;">757,440</td></tr> <tr><td>共済費</td><td style="text-align: right;">46,032</td><td style="text-align: right;">29,376</td></tr> <tr><td>報償費</td><td style="text-align: right;">100,000</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>需用費</td><td style="text-align: right;">200,425</td><td style="text-align: right;">195,825</td></tr> <tr><td>役務費</td><td style="text-align: right;">36,000</td><td style="text-align: right;">32,000</td></tr> <tr><td>謝礼</td><td></td><td style="text-align: right;">90,000</td></tr> <tr><td>計(円)</td><td style="text-align: right;">1,481,513</td><td style="text-align: right;">1,275,713</td></tr> </tbody> </table> <p>(年間利用者数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">12年度</th> <th style="text-align: center;">13年4月～12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>プログラム</td><td style="text-align: center;">22件</td><td style="text-align: center;">60件</td></tr> <tr><td>作成件数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>利用者数</td><td style="text-align: center;">1,320人</td><td style="text-align: center;">3,600人</td></tr> </tbody> </table>		12年度	13年4月～12月	給料	83,052	103,590	手当	6,120	7,605	共済費	15,480	19,620	賃金	195,490	207,600	謝礼	30,000	30,000	需用費	323,073	171,690	役務費	34,500	20,800	計(円)	687,715	560,905		12年度	13年4月～12月	訪問回数	1回	2回	講習会	12回	9回		12年度	13年4月～12月	給料	276,528	163,152	手当	12,768	7,920	賃金	809,760	757,440	共済費	46,032	29,376	報償費	100,000	0	需用費	200,425	195,825	役務費	36,000	32,000	謝礼		90,000	計(円)	1,481,513	1,275,713		12年度	13年4月～12月	プログラム	22件	60件	作成件数			利用者数	1,320人	3,600人
	12年度	13年4月～12月																																																																													
給料	83,052	103,590																																																																													
手当	6,120	7,605																																																																													
共済費	15,480	19,620																																																																													
賃金	195,490	207,600																																																																													
謝礼	30,000	30,000																																																																													
需用費	323,073	171,690																																																																													
役務費	34,500	20,800																																																																													
計(円)	687,715	560,905																																																																													
	12年度	13年4月～12月																																																																													
訪問回数	1回	2回																																																																													
講習会	12回	9回																																																																													
	12年度	13年4月～12月																																																																													
給料	276,528	163,152																																																																													
手当	12,768	7,920																																																																													
賃金	809,760	757,440																																																																													
共済費	46,032	29,376																																																																													
報償費	100,000	0																																																																													
需用費	200,425	195,825																																																																													
役務費	36,000	32,000																																																																													
謝礼		90,000																																																																													
計(円)	1,481,513	1,275,713																																																																													
	12年度	13年4月～12月																																																																													
プログラム	22件	60件																																																																													
作成件数																																																																															
利用者数	1,320人	3,600人																																																																													

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがい対応型デイサービス事業 ・ 介護予防と地域福祉事業 については、別紙資料添付 *添付資料④
<p>(問4)</p> <p>現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p><u>介護予防における関係機関の役割及び連携体制について関係者と協議した。結果、介護予防の拠点を在宅介護支援センターとし、対象者の把握から利用までや参加後のフォローの流れを地域ケアシステムとして明確にすることにより関係者の連携が円滑に図れるようになった。</u></p> <p>*資料添付⑤ 新・高齢者いきいきシステム（地域ケアシステム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがい対応型デイサービス事業 ① “生きがい型デイサービス”を実施委託した施設が、介護保険導入前から、従来のデイサービスを実施してきた施設であるため、運営ノウハウの積上げが活かされ実績につながっている。 ② 事業内容が転倒予防教室を併用したもので、転倒予防体操を利用ごとに行っている。なお、その体制づくりには、市保健婦、体操指導員により各事業所の生きがい活動援助員に当体操を指導することで、市のスタッフ実施日以外は、事前に指導した生きがい活動援助員により転倒予防体操が毎回実施できている。 ③ 連携体制で、実施施設の担当生活指導員、生きがい活動援助員、在宅介護支援センターと、市事業担当者、保健婦と連絡調整が確立されているため、対象者の把握、申請、訪問、緊急時の対応、指導等がスムーズに行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動指導事業 <p>基本健診の結果から参加勧奨しても、運動指導を継続して参加する人が少なかった経験から、肩こり、手先のしびれ等不定愁訴で困っている人が多い現状をみて、その解消のために呼びかけたところ、多くの人が集まった。まず、基本健診を受けてもらい、運動指導と並行して個別、集団指導をしている。運動で肩こり等が軽減されると運動指導の効果が、口コミで広がっている。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動指導事業 高血圧だから、高脂血症だから等と疾病のために運動をすすめても長続きはしない。むしろ、友達ができたり、体操後のさっぱりした気分や、肩こり、腰痛が軽減してくること等運動の意義を体で感じることを経験してもらおうと、心が明るくなり、生活習慣予防をしようという気持ちが湧いてくる。この時期に個別、集団健康教育を取り入れている。 ・ 生きがい対応型デイサービス事業 <ul style="list-style-type: none"> ① 事業実施スタッフと事業担当スタッフ、転倒予防教室担当保健婦との連絡会を開催。 ② 施設ごとに送迎バスを運行する事により、交通手段のない高齢者が、無理なく安心して利用できる。 ・ 介護予防と地域福祉活動事業 全市的に広がりつつある、地域コミュニティが基盤となつて、介護予防事業を進めるうえで、対象者の把握、迅速な対応が可能となっている。さらに、地域コミュニティづくりを推進することで、地域で取り組むあらゆる事業で、介護予防の必要性や内容を住民に周知することができる。 ・ 在宅介護支援センターの役割 <ul style="list-style-type: none"> ① 在宅介護支援センター連絡会の開催 基幹型が月1回開催し、介護予防事業の紹介や介護プランの検討を継続し、介護予防の視点を培う機会にしている。 ② 在宅介護支援センターと事業現場との直結した連携 「生きがい対応型デイサービス事業」を在宅介護支援センター併設の施設に委託している。そのため対象者の把握から利用勧奨、利用、事業実施、フォローに於いて直結した連携プレーができています。 ③ 在宅介護支援センター連絡会に事業事務局や地区担当保健婦も参加し、問題や課題の共通認識し、解決に向けて検討できるようにしている。

<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導事業 介護予防をしていくための運動は、定期的に継続し、習慣化していくことが重要であるため、短期間の指導で介護予防につながることはならない。しかし、そうなると対象者が多くなるためスタッフ、施設利用に限界がある。 ・生きがい対応型デイサービス事業 自立した高齢者を対象としているので、事業内容に工夫が必要であるため介護予防担当スタッフの研修会が必要である。 ・介護予防と地域福祉活動事業 介護予防施策を必要とする高齢者だけでなく、誰もが「介護予防」を自分の問題としてとらえるという意識をもつようにするための推進策を考えていかなければならない。 ・介護予防推進人材育成について <ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価をしていく人材が不足している。 ・介護予防とは何か、どうすれば予防できるのかを的確に説明できる人材の育成が必要。 ・介護予防はどこが中心となり推進していくことが望ましいのか。(保健か、介護か、福祉か) ・介護予防で最も効果があると考えられる運動指導事業は、運動実技とともに、個別アセスメント、生活習慣病予防指導、評価ができる人材が必要であるが人材が乏しい。 ・運動指導は継続者が多いため、新たな受け皿と指導者の育成が喫緊の課題。
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① スタッフの育成 地域ケア会議での事例検討会において、介護予防対象者の事例を出し、関係者の介護予防意識を高める。さらに評価についても検討していく。 ② 地域福祉役員および福祉委員（民生・児童委員、民生協力委員）の育成 介護予防とは何か、また、地域での自分達が果たすべき役割は何なのかを、行政と社会福祉協議会と協働で進めていく。 ③ 住民意識の改革 誰もが「介護予防」を自分の問題としてとらえるという意識をもつようにするために、各地域でできるだけ多数の人に介護予防の施策や必要性を周知する機会を設ける。例えば、健康福祉まつりで実施した「介護予防と地域福祉活動」をテーマとした基調講演やパネルディスカッションを研修会用ビデオを作製し、各地区において、研修会を実施する。

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>() 行っている。→②へ</p> <p>() 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転倒予防教室（生きがい対応型デイサービス事業） ・ 運動指導事業 <p>*添付資料⑥</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 年齢階層別介護認定数と給付費の推移 ② 介護認定者の介護度別原因疾患の推移 ③ 運動指導対象者（国保被保険者）の加入前後の医療受診回数および生活の変化 ④ 生きがい対応型デイサービス参加者の生活の変化
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>前期高齢者の介護認定率（その人口に対し）を3%以内に抑える。</p>